

○『くろいの』

たなか きよ 田中 清代／さく
(偕成社)



ひとりで帰るいつもの道で、女の子は真っ黒な謎のいきものを見つけました。その「くろいの」は、他の人には見えていないようです。女の子が思いきって声をかけてみると、とことことと歩きだしました。追いかけると、「くろいの」は塀の穴をくぐっていき、ある古い家にたどりつきます。そこで「くろいの」は女の子にお茶を出し、押し入れや屋根裏の不思議な世界を案内します。(いわい)

♥『ばけねこ』

すぎやま あきら 杉山 亮／作
アン マサコ／絵
(ポプラ社)



女の子は、飼い猫のタマを探すために、ねこみやまという山へ向かいましました。ところが、途中で道に迷ってしまいます。運良く一軒の屋敷を見つけ、その屋敷を訪ねてみると、中にいたたくさんの人と猫が、女の子をじろろと見ました。女の子はそこで一人のお婆さんに出会い、信じがたい話を聞かされます。この不気味な屋敷の正体は、いったい何なのでしょう。(あだち)

○『せんめんじょで きっちんで』

ウチダ ゴウ／文
ザ・キャビンカンパニー／絵
(ブルーシープ)



「ぼく」が洗面所で歯をみがいてみると、鏡に映る黒い影は髪をとかしています。ぼくが口をゆすいで顔をあげると、影は鏡から消えています。誰もいないはずのキッチンや路地裏では、どこか不気味な雰囲気をもった影が、さまざまな形でぼくのそばに現れます。怖くて会いたくないけれど、やっぱり気になってしまう。そんなオバケの姿が描かれています。(こじま)

♥『おいしいの ぼうけん』

ふるた たるひ／さく
たばた せいいち／さく
(童心社)



さくら保育園には、かわいいものが2つあります。ひとつは押し入れて、もうひとつは、人形劇で先生が演じるねずみばあさんです。ある日、ふたりの男の子がお昼寝の時間にけんかをし、押し入れに閉じこめられてしまいました。すると、まっくらな押し入れの中に、いつの間にかねずみばあさんが現れ、ふたりは押し入れの奥にある不思議な世界に逃げこみます。(にしかわ)

としょかん
おばけやしきへ
ようこそ

対象年齢

- ：5さい以下
- ♥：小学校低学年から
- ☆：小学校中学年から
- ◆：小学校高学年から

☆『オバケが見える 転校生！』

とみやす ようこ 富安 陽子／作
(ポプラ社)



四年生の新学期、クラス発表の貼紙を見ていた真先は、すぐ後ろに黒い人影が突っ立っているのを見ます。あっと、思ったその瞬間、人影は消えてなくなり真先の背中からは、ぞくりと冷たくなりました。そしてこの日、真先のクラスに怪しげな転校生がやって来ます。この転校生なんと、オバケが見えるというのです。(おくむらや)

◆『透明人間のくつ下』

アレックス・シアラー／著
(竹書房)



バス遠足の自由時間に「リトル・ホラー博物館」にやってきた子どもたちと先生は、係員のミセス・アバクロンビーから「展示品には絶対にさわっちゃダメ」と忠告されます。なのにマイケルは『透明人間のくつ下』の展示場所に何も置かれていないのを見て「こんなのインチキだ」と言いながらつい手を伸ばしてしまいました。すると、何かにふれたマイケルは「あああああ〜！」と突然叫び出し、その場に凍りついたようになってしまいます。(つだ)

◆『さいごのゆうれい』

さいとう りん 斉藤 倫／著
(福音館書店)



小5の夏、ハジメは田舎のおばあちゃん家の近くで、ふわふわと形の変わるふしぎな飛行機を見つけます。滑走路を離れて空き地に着陸した飛行機からは、一人の女の子がおりてきて、自分がさいごのゆうれいだと言い出しました。ネムと名のるゆうれいと仲良くなったハジメは、有名なゆうれいになりたいネムのために、町で一緒にゆうれいさわざをおこすことになりました。(おくむらさ)